



リスク分析報告書



会 社 名 株式会社 ○○××

代 表 者 名

作成日 2007年10月3日

リスク分析レポート

株式会社 ○○××

作成日： 2007年10月3日

企業の経営リスクを最小にし、経営の安定化を図るのは経営者の務めです。そのため、経営者が把握すべき、存続の最低ラインとなる企業全体の「財務リスク」を分析し、計画的に回避していく必要があります。貴社のリスク分析報告書を提出しますので、今後の経営にご活用ください。

18期（平成19年3月決算） 経営概況は以下の通りです。
（数値概要）

1. 売上高 303,061千円（前年比+8.0%増加）
2. 売上総利益（率） 186,000千円（61.5%）
3. 経費（償却費除） 176,900千円（前年に対し+3,800千円増加）
4. 経常利益 10,500千円（償却前）

（主要経営指数）

1. 損益分岐点 302,000千円（25,000千円/月）
2. 返済可能売上高 350,000千円（返済額29,000千円）
3. 労働分配率 51.0（注）黒字企業平均49.5%です。
4. 自己資本比率 -7.1%

「勘定あって銭足らず」の言葉通り、前期は、10,500千円利益でしたが、借入金の返済が27,500千円のため資金繰りに追われました。不足分は、買掛金等の増加17,500千円でまかないました。来期は増加した買掛金の支払と返済で資金的には厳しい状況です。今期同様に経常利益を確保するとともに、早期の資金対策がポイントになります。

（以上）

財務リスク分析表〔I〕

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

作成日: 2007年10月3日

実効税率: 0.0% 法人

単位: 千円

分析項目	評価年度売上高	借入返済可能売上高	差	判定
①借入返済可能売上高	303,061	349,868	-46,807	×
生き残りのための最低売上高。 【参考】減価償却額加味後 333,033	$\frac{\text{固定費} + \{ \text{借入返済額} \div [1 - \text{実効税率}] \}}{\text{限界利益率}}$ $\frac{176,323 + \{ 28,000 \div [1 - 0.0] \}}{58.4}$			

分析項目	分析値	基準値	差	判定
②労働分配率	51.0%	49.5%	1.5%	×
労働生産性を表し、低いほうが効率が良い。	$\frac{\text{人件費}}{\text{限界利益}}$ $\frac{90,254}{177,036}$			

分析項目	分析値	基準値	差	判定
③総資本経常利益率	0.2%	4.2%	-4.0%	×
(利益率)	0.2%	4.3%	-4.1%	×
(回転率)	0.8回	1.0回	-0.2回	×
経営効率は社長の勲章。	$\text{総資本経常利益率} = \text{利益率} \times \text{回転率}$ $\text{利益率} = \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}}$ $0.2 = \frac{713}{303,061}$ $\text{回転率} = \frac{\text{売上高}}{\text{総資本/平均}}$ $0.8 = \frac{303,061}{399,346}$			

分析項目	分析値	基準値	差	判定
④自己資本比率	-7.1%	20.4%	-27.5%	×
根本的な安全性。 【参考】時価自己資本比率 -7.1%	$\frac{\text{資本合計}}{\text{総資本}}$ $\frac{-28,178}{398,027}$			

分析項目	分析値	基準値	差	判定
⑤当座比率	17.4%	60.8%	-43.4%	×
当面の安全性。 【参考】時価当座比率 17.4%	$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}}$ $\frac{19,557}{112,364}$			

※「他社比較」はTSR等データの「飲食店・宿泊業:黒字企業平均」の基準値です

財務リスク分析表〔Ⅱ〕

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

作成日: 2007年10月3日
実効税率: 0.0% 法人
単位: 千円

分析項目	分析値	売上債権残日数	仕入債務残日数	判定
⑥回収支払バランス	-144.6日	12.8日	157.4日	○
取引条件による運転資金の圧迫度。 マイナスが良好。	$\left\{ \begin{array}{l} \text{売上債権} \div \text{売上高} \times 365 \text{日} \\ 10,655 \quad 303,061 \end{array} \right\}$ $- \left\{ \begin{array}{l} \text{仕入債務} \div \text{仕入高} \times 365 \text{日} \\ 50,516 \quad 117,178 \end{array} \right\}$			

分析項目	分析値	借入返済予定年数	差	判定
⑦借入返済可能年数	198.4年	5.0年	193.4年	×
あと何年で借入金等を解消できるか。 【参考】減価償却額加味後 13.4年	$\frac{\text{借入金等} + \text{設備手形} + \text{社債}}{\text{経常利益} \times \{1 - \text{実効税率}\}}$ $\frac{141,443 + 0 + 0}{713 \times \{1 - 0.0\}}$			

分析項目	分析値	基準値	差	判定												
⑧資金点検 A (資金の源泉)	10,465	 	 	○												
資金点検 B (返済余力)	-171	 	 	×												
資金繰り悪化の原因を把握。	<p>A 資金の源泉 = 当期利益 + 減価償却費 + 引当金等増加額 633 9,832 0</p> <p>B 返済余力 = 営業キャッシュフロー - 借入返済額 27,829 28,000</p> <p>【参考】主要5勘定の増減</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>仕入債務増</td><td style="text-align: right;">15,066</td></tr> <tr><td>借入金等増</td><td style="text-align: right;">-27,506</td></tr> <tr><td>△ 売上債権増</td><td style="text-align: right;">6,138</td></tr> <tr><td>△ 棚卸資産増</td><td style="text-align: right;">503</td></tr> <tr><td>△ 固定資産等増</td><td style="text-align: right;">1,618 (減価償却費を加味)</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">-20,699</td></tr> </table>				仕入債務増	15,066	借入金等増	-27,506	△ 売上債権増	6,138	△ 棚卸資産増	503	△ 固定資産等増	1,618 (減価償却費を加味)	合計	-20,699
仕入債務増	15,066															
借入金等増	-27,506															
△ 売上債権増	6,138															
△ 棚卸資産増	503															
△ 固定資産等増	1,618 (減価償却費を加味)															
合計	-20,699															

財務リスク分析表〔Ⅲ〕

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

作成日： 2007年10月3日

実効税率： 0.0% 法人

単位：千円

【変動損益計算書】

売上高 [303,061]	変動費 [126,025]		
	限界利益 [177,036] (※1)[58.4]%	固定費 [176,323]	
		人件費 [90,254]	(※2)[51.0]%
		償却額 [9,832]	
		金融費用 [6,648]	
		他固定費 [69,589]	
		差引利益 [713]	

※1限界利益率 ※2労働分配率

* 棚卸増減/固定 [0]

* 経常利益 [713]

【要約貸借対照表】

流動資産 [31,457] (31,457)	当座資産 [19,557] (※3)[17.4] % (19,557) (※3)(17.4) %	流動負債 [112,364] (112,364)
		固定負債等 [313,841] (313,841)
固定資産等 [366,570] (366,570)		純資産合計(自己資本) (※4) [-28,178] [-7.1] % (-28,178) (-7.1) %

() は時価

※3当座比率 ※4自己資本比率

* 総資産(総資本) [398,027]

(398,027)

【当期利益と主要運転資金5勘定の資金影響額】 (他資産に当座資金は含めず)

増加額	当期	前期	△科目	+科目	前期	当期	増加額
6,138	10,655	4,517	売上債権	利益・償却費・引当増	--	--	10,465
503	4,698	4,195	棚卸資産	仕入債務等	35,450	50,516	15,066
-2,159	8,884	11,043	他資産(※1)	借入金等	168,949	141,443	-27,506
1,618	366,570	374,784	固定資産等(※2)	他負債・資本(※3)	196,266	206,068	9,169
6,100			使途増計	調達増計			7,194
1,094			資金増加	資金減少			

<増加額の計算> (※1.貸倒引当金増 [0] をプラス
 ※2.減価償却費 [9,832] をプラス
 ※3.他引当金増 [0] 及び当期利益 [633] をマイナス

【回収支払バランス】

<回収条件>

売掛金残高	+	受取手形残高	-	不良債権残高	=	通常債権残高
10,655		0		0		10,655

(裏書手形を含む)

<支払条件>

買掛金等残高	+	支払手形残高	-	滞留債務残高	=	通常債務残高
50,516		0		0		50,516

月	売上高	現状		改善後	
		債権残高内訳	日数	債権残高内訳	日数
12月前		10,655	999.9		639.9
11月前					30.0
10月前					30.0
9月前					30.0
8月前					30.0
7月前					30.0
6月前					30.0
5月前					30.0
4月前					30.0
3月前					30.0
2月前					30.0
1月前					30.0
合計		10,655	999.9		999.9

月	仕入高	現状		改善後	
		債務残高内訳	日数	債務残高内訳	日数
12月前		50,516	999.9		639.9
11月前					30.0
10月前					30.0
9月前					30.0
8月前					30.0
7月前					30.0
6月前					30.0
5月前					30.0
4月前					30.0
3月前					30.0
2月前					30.0
1月前					30.0
合計		50,516	999.9		999.9

現状残高日数	+	改善日数	=	改善後残高日数
999.9		0.0		999.9

回収支払日数差

現状 0.0

↓
改善後 0.0

現状残高日数	+	改善日数	=	改善後残高日数
999.9		0.0		999.9

改善後残高	-	現状残高	=	資金改善額
0		50,516		-50,516

現状残高	-	改善後残高	=	資金改善額
10,655		0		10,655

財務評価推移

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

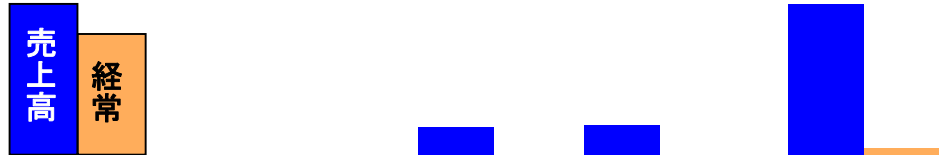
作成日: 2007年10月3日
実効税率: 0.0% 法人
単位: 千円

①キャッシュフロー (当座資金残高)



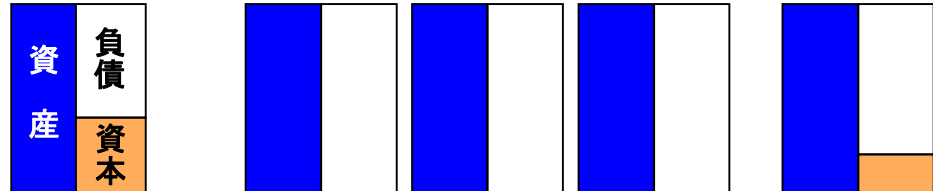
	2005年3月	2006年3月	2007年3月
営業キャッシュフロー			27,829
投資キャッシュフロー			772
フリーキャッシュフロー			28,601
財務キャッシュフロー			-27,507
当座資金増減			1,094
当座資金残高			7,220
固定性預金			1,682
現預金残高			8,902

②売上&経常利益



	2005年3月	2006年3月	2007年3月	他社比較
売上高		277,526	303,061	1,530,469
(前年UP率)		999.9	9.2	--
(損益分岐点売上高)		276,539	301,923	1,435,874
(経営安全率)		0.4	0.4	6.2
限界利益		162,498	177,036	1,056,024
(限界利益率)		58.6	58.4	69.0
固定費		162,052	176,323	990,753
経常利益		446	713	65,270
(売上高経常利益率)		0.2	0.2	4.3
(総資本経常利益率)		0.2	0.2	4.2
労働分配率		55.6	51.0	49.5
一人当たりの売上高		10,674	11,656	22,843
一人当たりの限界利益		6,250	6,809	15,762
一人当たりの経常利益		17	27	974
一人当たりの人件費		3,477	3,471	7,802
期末社員数		26.0	26.0	67.0
一株当たりの当期利益(円)				--

③自己資本



	2005年3月	2006年3月	2007年3月	他社比較
当座比率		15.8	17.4	60.8
固定長期適合率		121.9	128.3	102.8
自己資本比率		-7.2	-7.1	20.4
借入金対月商倍率		7.3	5.6	7.2
棚卸資産残高日数		14.3	14.7	--
売上債権残高日数		5.9	12.8	--
仕入債務残高日数		121.5	157.4	--
回収支払バランス		-115.6	-144.6	--
一株当たりの純資産(円)				--

※「他社比較」はTSR等データの「飲食店・宿泊業:黒字企業平均」の基準値です

過年度推移表(損益)

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

作成日: 2007年10月3日

実効税率: 0.0% 法人

単位: 千円

【要約損益】

科目名	2005年3月			2006年3月			2007年3月		
	残高	構成比	増加率	残高	構成比	増加率	残高	構成比	増加率
<売上高合計>				277,526	100.0	*****	303,061	100.0	9.2
<売上原価>				107,285	38.7	*****	116,675	38.5	8.8
<売上総利益>				170,241	61.3	*****	186,386	61.5	9.5
販売変動費				7,743	2.8	*****	9,350	3.1	20.8
人件費				90,399	32.6	*****	90,254	29.8	-0.2
減価償却費				251	0.1	*****	9,832	3.2	*****
その他				68,124	24.5	*****	70,648	23.3	3.7
<販売費・一般管理費>				166,517	60.0	*****	180,084	59.4	8.1
<営業利益>				3,724	1.3	*****	6,302	2.1	69.2
受取利息・配当金									
支払利息・割引料				6,865	2.5	*****	6,648	2.2	-3.2
他営業外損益				3,587	1.3	*****	1,059	0.4	-70.5
<経常利益>				446	0.2	*****	713	0.2	59.9
特別損益等									
<税引前当期利益>				446	0.2	*****	713	0.2	59.9
法人税等充当額							80		*****
法人税等調整額									
<当期利益>				446	0.2	*****	633	0.2	41.9

〔製造経費〕

【変動損益】

科目名	2005年3月			2006年3月			2007年3月		
	残高	構成比	増加率	残高	構成比	増加率	残高	構成比	増加率
<売上高合計>				277,526	100.0	*****	303,061	100.0	9.2
<変動費>				115,028	41.4	*****	126,025	41.6	9.6
<限界利益>				162,498	58.6	*****	177,036	58.4	8.9
人件費				90,399	32.6	*****	90,254	29.8	-0.2
減価償却額				251	0.1	*****	9,832	3.2	*****
金融費用				6,865	2.5	*****	6,648	2.2	-3.2
他固定費				64,537	23.3	*****	69,589	23.0	7.8
<固定費合計>				162,052	58.4	*****	176,323	58.2	8.8
<差引利益>				446	0.2	*****	713	0.2	59.9

過年度推移表(貸借)

5016
株式会社 ○○××

2007年3月 現在

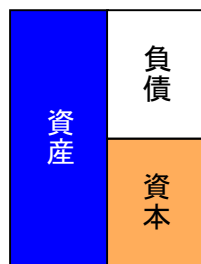
作成日: 2007年10月3日
実効税率: 0.0% 法人
単位: 千円

科目名	2005年3月		2006年3月		2007年3月		時価差額	時価	構成比
	残高	構成比	残高	構成比	残高	構成比			
当座資金			6,126	1.5	7,220	1.8		7,220	1.8
固定性預金			4,072	1.0	1,682	0.4		1,682	0.4
受取手形									
売掛金			4,517	1.1	10,655	2.7		10,655	2.7
有価証券									
(当座資産計)			14,715	3.7	19,557	4.9		19,557	4.9
棚卸資産			4,195	1.0	4,698	1.2		4,698	1.2
仮払税金等									
他の流動資産			6,971	1.7	7,202	1.8		7,202	1.8
<流動資産合計>			25,881	6.5	31,457	7.9		31,457	7.9
償却資産			308,670	77.0	299,620	75.3		299,620	75.3
土地			60,786	15.2	60,786	15.3		60,786	15.3
他固定資産			1,995	0.5	2,530	0.6		2,530	0.6
<固定資産合計>			371,451	92.7	362,936	91.2		362,936	91.2
繰延資産			3,333	0.8	3,634	0.9		3,634	0.9
【資産の部合計】			400,665	100.0	398,027	100.0		398,027	100.0
支払手形									
買掛金等			35,450	8.8	50,516	12.7		50,516	12.7
短期借入金			5,000	1.2					
割引手形									
未払税金等			1,045	0.3	3,449	0.9		3,449	0.9
他流動負債			51,633	12.9	58,399	14.7		58,399	14.7
<流動負債合計>			93,128	23.2	112,364	28.2		112,364	28.2
設備投資手形									
長期借入金			163,949	40.9	141,443	35.5		141,443	35.5
社債									
他固定負債			172,398	43.0	172,398	43.3		172,398	43.3
<固定負債合計>			336,347	83.9	313,841	78.8		313,841	78.8
その他引当金									
【負債の部合計】			429,475	107.2	426,205	107.1		426,205	107.1
資本金等			10,000	2.5	10,000	2.5		10,000	2.5
剰余金等			-38,810	-9.7	-38,178	-9.6		-38,178	-9.6
評価換算・新株予約権									
【資本の部合計】			-28,810	-7.2	-28,178	-7.1		-28,178	-7.1
【負債資本の部合計】			400,665	100.0	398,027	100.0		398,027	100.0

発行株式数(株) [] [] []	含み純差益 [] [] []
借入返済額 [] [] [28,000]	含み純益 [] [] []
裏書手形 [] [] []	税金加算額 [] [] []
不良債権 [] [] []	
不良在庫 [] [] []	
滞留債務 [] [] []	

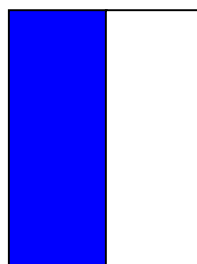
<自己資本がら>

2007年3月



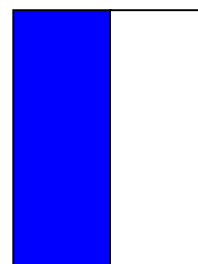
自己資本比率

<簿価>



-7.1%

<時価>



-7.1%

過年度推移表(キャッシュフロー)

5016
株式会社 ○○××

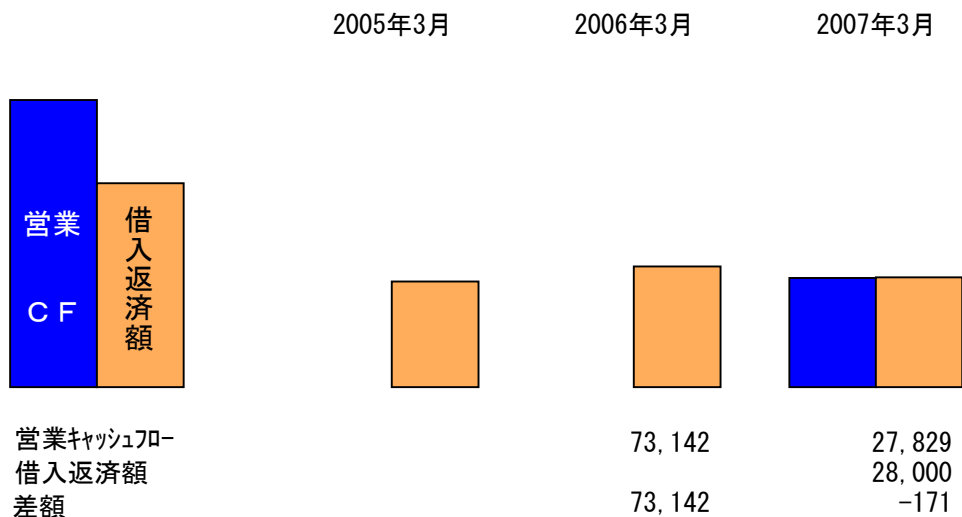
2007年3月 現在

作成日: 2007年10月3日
実効税率: 0.0% 法人
単位: 千円

科目名	2005年3月	2006年3月	2007年3月
	残高	残高	残高
<当期利益>			633
減価償却費			9,832
引当金等増加額			
売掛金増加 (-)			6,138
受取手形増加 (-)			
棚卸資産増加 (-)			503
他流動資産増加 (-)			231
買掛金等増加			15,066
支払手形増加			
割引手形増加			
他流動負債増加			9,170
<営業キャッシュフロー>			27,829
償却資産増加 (-)			1,083
土地等増加 (-)			
他固定資産増加 (-)			-1,855
<投資キャッシュフロー>			772
<フリーキャッシュフロー>			28,601
借入金等増加			-27,506
他固定負債増加			
他資本等増加			-1
<財務キャッシュフロー>			-27,507
<当座資金増減>			1,094
<期首当座資金>			6,126
<期末当座資金>			7,220
固定性預金			1,682
現預金残高			8,902

今期の営業CFはプラスですが、左記の買掛金の増加によるものが大きく影響しております。来期この買掛の支払いが回ってきますので、ご注意ください。

<営業キャッシュフロー・借入金返済額比較グラフ>



信用リスク分析表

2007年3月 現在

作成日: 2007年10月3日

実効税率: 0.0% 法人

単位: 千円

5016

株式会社 ○○××

信用評価

9

危険

評価	配点	得点
定量評価	129	23
定性評価	71	3
合計	200	26

判定	評価	スコア	ポイント一覧	内 容
適 正	1	180 以上	リスク無し	安全性は最高水準で、財務内容も極めて優れていると判断される企業。融資先としてのリスクは最小限で、債務償還能力は最も良い。
	2	160 以上	ほとんどリスク無し	かなり優れていると判断される企業。返済の確実性は極めて高く、業況にも懸念がない。ただし、信用評価1より安全性はやや劣る。
	3	140 以上	リスク些少	貸出先としてはかなり魅力的で安定性も高い。元利払が滞る可能性は低いが、長期的に見ると安定性が低下する可能性がある。
要 注 意	4	100 以上	リスクはあるが良好水準	現時点での融資元金払の確実性は高いが、将来的には返済の確実性が低下するか、信用状況に懸念が生じる可能性がある。
	5	80 以上	リスクはあるが平均水準	当面の返済能力には不安がないが、信用評価4以上に環境の変化などにより将来において安全性が低下する恐れがある。
	6	50 以上	リスクはやや高いが許容範囲	当面の返済能力にはそれほど不安がないが、長期的に安全性を維持できるという確実性は低い。
危 険	7	40 以上	リスク高く徹底管理	すぐに債務不履行に陥るわけではないが、現時点ですでに返済の確実性が低く、安全性に欠ける。将来的にも安全性には懸念がある。
	8	30 以上	警戒先	すでに債務不履行にあるか、あるいは重大な危険性が認められる。企業内容はかなり悪化しており、経営が行き詰まる可能性が高い。
	9	20 以上	延滞先	債務不履行中でかつ解消のめどが立たない。貸出金の回収に重大な懸念が生じており、損失の発生が見込まれる。回収の難しい先。
	10	20 未満	事故先	不良債権化し、貸出金回収の見込みもなく、償却を要する。

定 量 評 価		結果値	配点	得点	5	10	15	20
安全性	自己資本比率	-7.1	10	0				
	ギアリング比率	999.9	10	0				
	流動比率	28.0	7	0				
	経営安全率	0.4	7	1				
収益性	売上高経常利益率	0.2	5	1				
	総資本経常利益率	0.2	5	1				
	収益フロー	1	5	0				
成長性規模	売上高増加率	9.2	5	3				
	経常利益増加率	59.9	5	5				
	自己資本額	-28,178	15	0				
返済能力	債務償還年数	8.8	20	8				
	インタレスト・カバレッジ・レシオ	0.9	15	0				
	キャッシュフロー額	16,134	20	4				
合 計			129	23				

※定量評価計算式

- 自己資本比率

$$\frac{\text{資本合計} [-28,178]}{\text{総資本} [398,027]}$$
- ギアリング比率

$$\frac{\text{借入金および社債} [141,443]}{\text{資本合計} [-28,178]}$$
- 流動比率

$$\frac{\text{流動資産合計} [31,457]}{\text{流動負債合計} [112,364]}$$
- 経営安全率

$$\frac{\text{売上高合計} [303,061]}{\text{一損益分岐点売上高} [301,923]}$$
- 売上高経常利益率

$$\frac{\text{経常利益} [713]}{\text{売上高} [303,061]}$$
- 総資本経常利益率

$$\frac{\text{経常利益} [713]}{\text{平均総資本} [399,346]}$$
- 売上高増加率

$$\frac{\text{売上高合計} [303,061]}{\text{一前期売上高合計} [277,526]}$$
- 経常利益増加率

$$\frac{\text{経常利益} [713]}{\text{一前期経常利益} [446]}$$
- 債務償還年数

$$\frac{\text{借入金および社債} [141,443]}{\text{営業利益} [6,302] + \text{減価償却額} [9,832]}$$
- インタレスト・カバレッジ・レシオ

$$\frac{\text{営業利益} [6,302] + \text{受取利息・配当金} []}{\text{支払利息・割引料} [6,648]}$$
- キャッシュフロー額

$$\frac{\text{営業利益} [6,302] + \text{減価償却額} [9,832]}{\text{借入金および社債} [141,443]}$$

定 性 評 価		状態	配点	得点	5	10
業 歴	18年		5	3		
市場動向			10	0		
景気感応度			3	0		
市場規模			4	0		
競合状態			7	0		
経営者・経営状態			10	0		
株 主			5	0		
従業員のモラル			3	0		
営業基盤			10	0		
競争力			7	0		
シェア			7	0		
合 計			71	3		

①借入返済可能売上高

基準値に比べ

悪い

借入金返済の為に最低限必要な売上高を表したものです

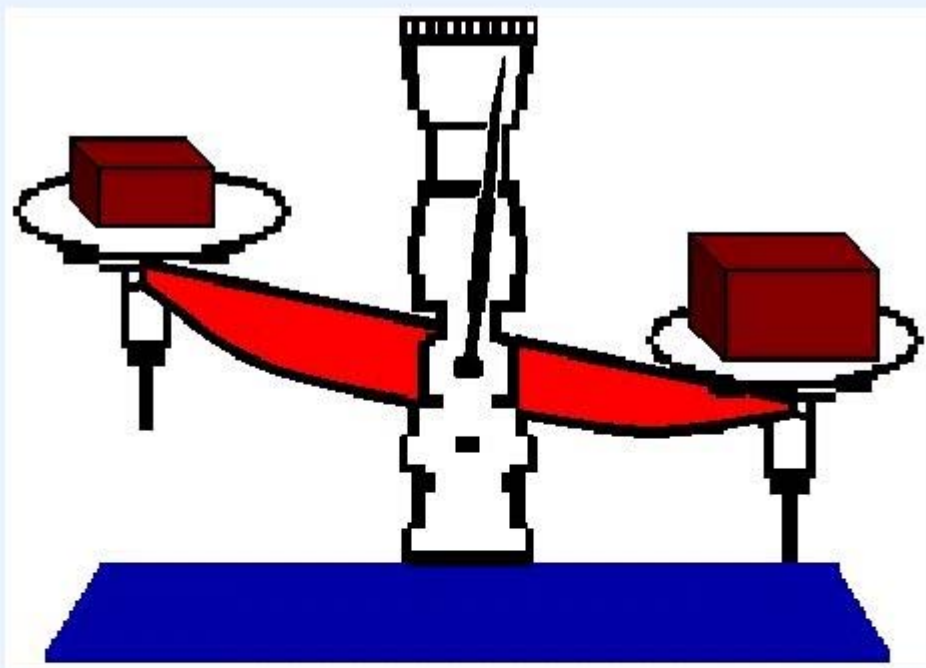
※減価償却額は再投資費用として加味しません

評価年度売上高

[303,061]

借入返済可能売上高

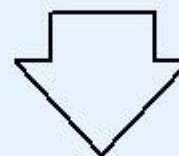
[349,868]



過不足 [-46,807]

$$\frac{\text{固定費} [176,323] + \{ \text{借入返済額} [28,000] \}}{\div (1 - \text{実効税率} [0.0] \%)}$$

限界利益率 [58.4] %



349,868

< 参考表示 > ————
減価償却額加味後売上高 [333,033]